

事務局説明

令和2年11月25日（水）教育委員会

目 次

- 1 本日の会議の位置付け
- 2 本日も協議いただきたいこと
- 3 目指す子どもの姿を実現するための学校、家庭、地域の関わり
- 4 前回までにいただいたご意見
- 5 施策の検討における視点
- 6 目指す姿を実現するための施策
- 7 具体的な施策の提案

1 本日の会議の位置付け

●今回は、「目指す『子ども』『家庭・地域』の姿」の実現に向けた施策をテーマに協議

●今年度の会議の進め方



2 本日も協議いただきたいこと

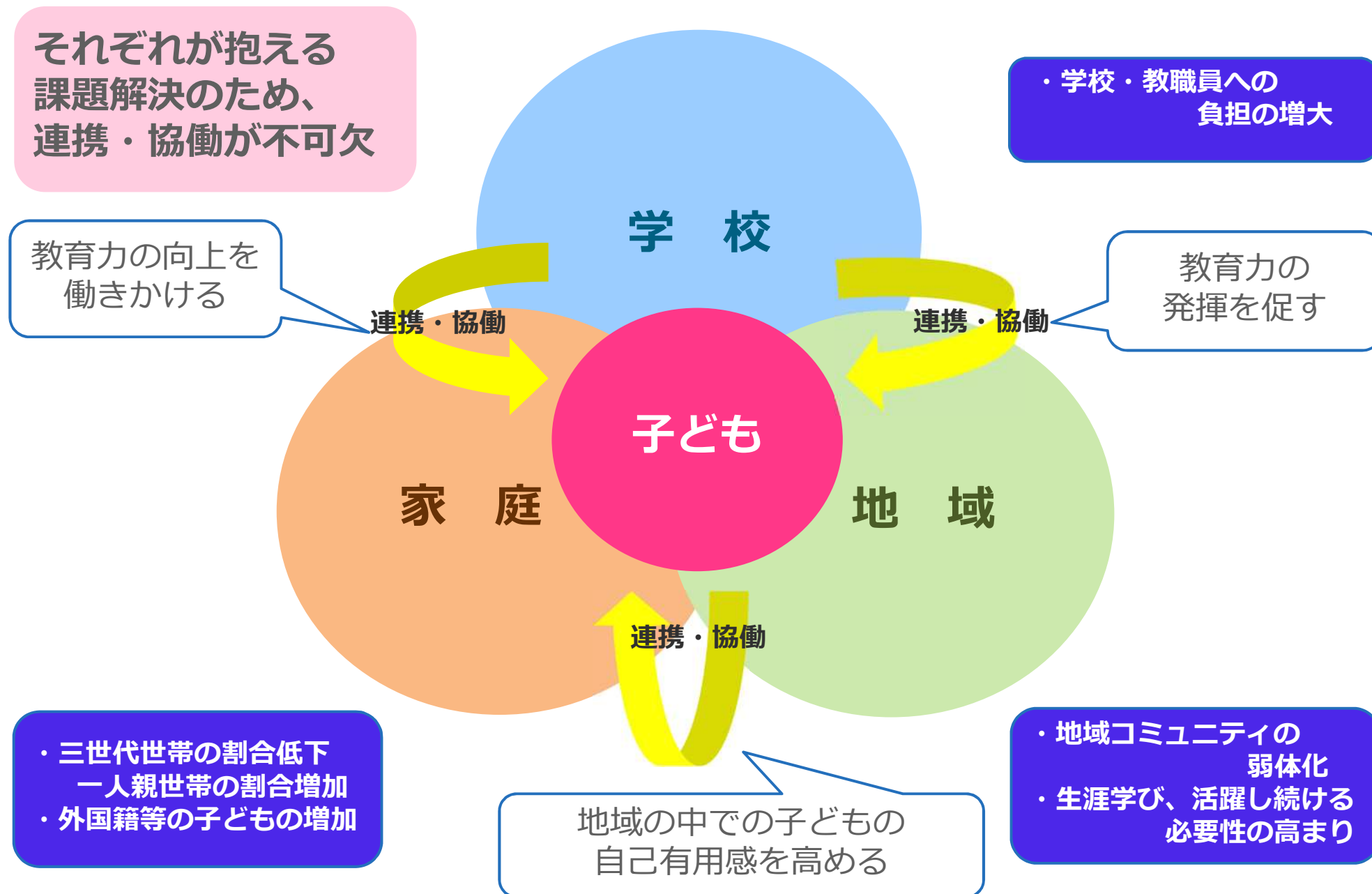
- 本日は、主に**以下2点の事項**について、**ご協議**いただきたい

「目指す子どもの姿」「目指す家庭・地域の姿」の実現に向けて、

① 令和3年度に実施する 具体的な施策・取組み・見直し について

② 令和4年度以降に取り組むべき 施策・取組み・見直しの方向性 について

3 目指す子どもの姿を実現するための学校、家庭、地域の関わり



4－1 前回までにいただいたご意見（目指す**子ども**の姿）

実現の方策・姿勢	施策についてのご意見
生命の尊厳や人間関係の深い学びの実践	・最も優先順位が高いのが、命、人間関係に関する教育である ・感性を磨き、規範意識を植え付けることが必要 ・生命の尊厳は、学校・教職員、家庭・地域、3者共通の課題 ・生命の尊厳は、各教科で意識しながら教えていく ・不安は死より怖い。子どもたちが感じている不安、ストレスの対処法などのライフスキルを十分に知らせていく必要がある ・多様な家庭から様々な子どもたちが来ている公教育の場であるからこそできる教育がある。 ・他人の痛みや喜びに共感できる心を養う教育が必要
子どもを主体とした、探究を核とする自律的学びの充実	・自ら選択と行動する、子どもが学びの主体となる必要がある ・深い学びを行うためのツールやノウハウ、環境の試行錯誤が必要 ・体験学習などにより感性を磨く ・小学生は、探究の前に、知識や教養をインプットし、多様な経験を積ませることが必要 ・タブレットの活用 ・個に応じた学びのための教材の提供やシステムの構築 ・一人ひとりの学びの状況の可視化 ・タブレットとアゴラを使ったハイブリットな学びの実施
学校形態・学び方の多様化	・草潤中学校やフリースクールとも手をつなぎながら、どの子にも学びの場を提供できる環境づくりの推進が必要。 ・今後は、イエナプランや白川村の義務教育学校の取組みのような、学年を超えた授業を行う体制も必要

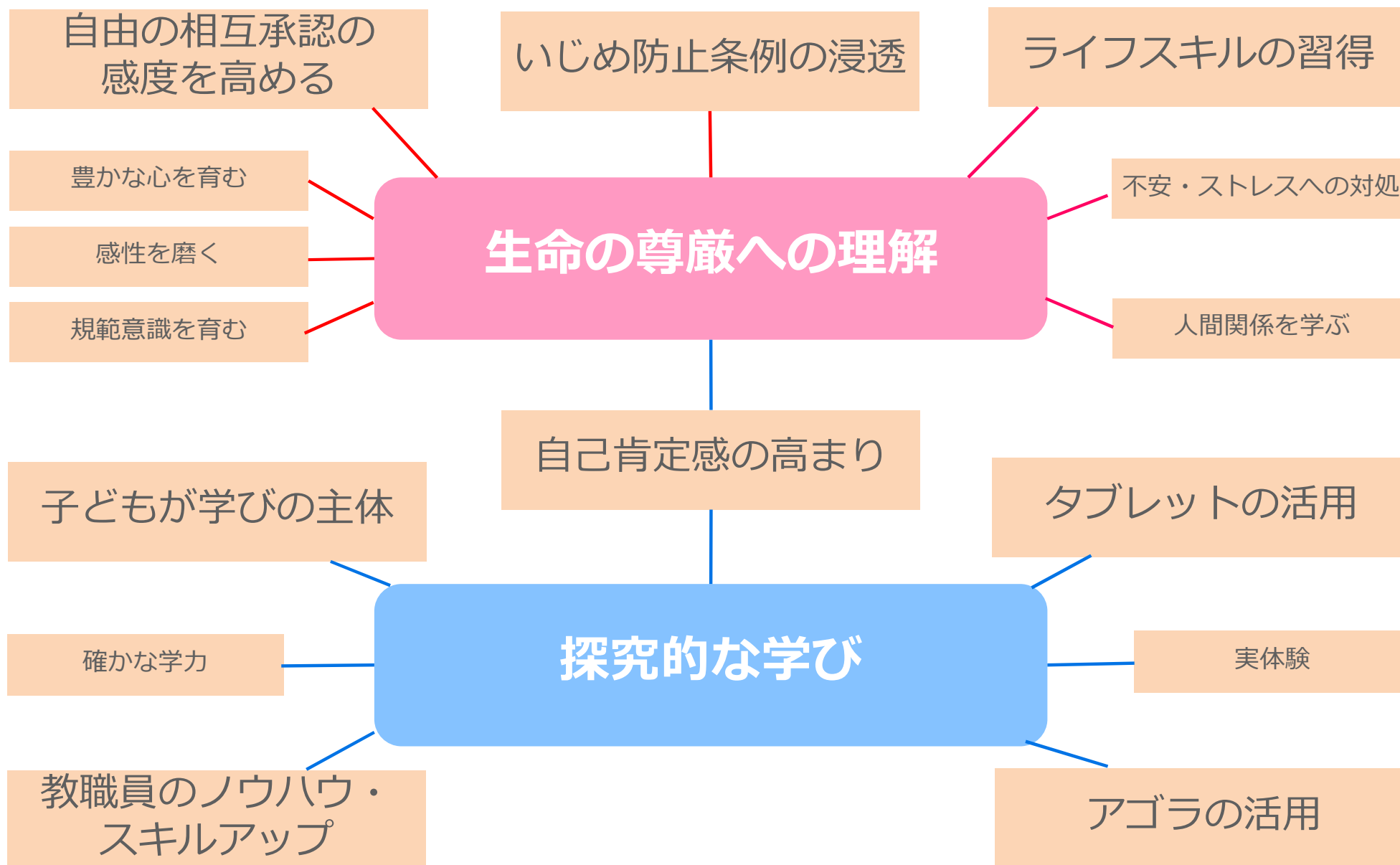
4－2 前回までにいただいたご意見（目指す**学校・教職員**の姿）

実現の方策・姿勢	施策についてのご意見
子どもと教職員、 教職員同士の対話に 基づく相互信頼の確立	・教職員の帰宅が早くなっても、子どもの話を聞く時間の確保と結びつかないことも考えられるので、教育課程内にそのための時間の設定が必要
教職員がより深く 子どもと向き合うための 学校業務改革の推進	・加配等の人的配置がなされないと、困難な状況が続き、現場に無力感が漂う ・教職員の業務の簡素化、外部委託の導入 ・教職員の職務分掌と時間配分の再構築 ・教職員が仕事もプライベートも大切にする、公私を両立できる大人のロールモデルとなる ・タブレットを活用した業務の簡素化や削減 ・よい取り組みを行った教職員へのインセンティブ ・土曜授業の在り方 ・研修校の在り方を検討 ・働き方改革エクセレント学校の認定
教職員の資質・能力向上 に資する人材育成の充実	・学校のガバナンスの強化 ・校長の教育者としてだけでなく、経営者としての資質の向上 ・研修プログラムの見直し
教育委員会の 学校支援機能等の強化	・教育委員会は、学校に対するサービス部門として、しっかりとサービスが提供できる体制が必要 ・教育委員会と学校現場との率直な意見交換、すり合わせが必要 ・教育委員会と学校現場との人事交流

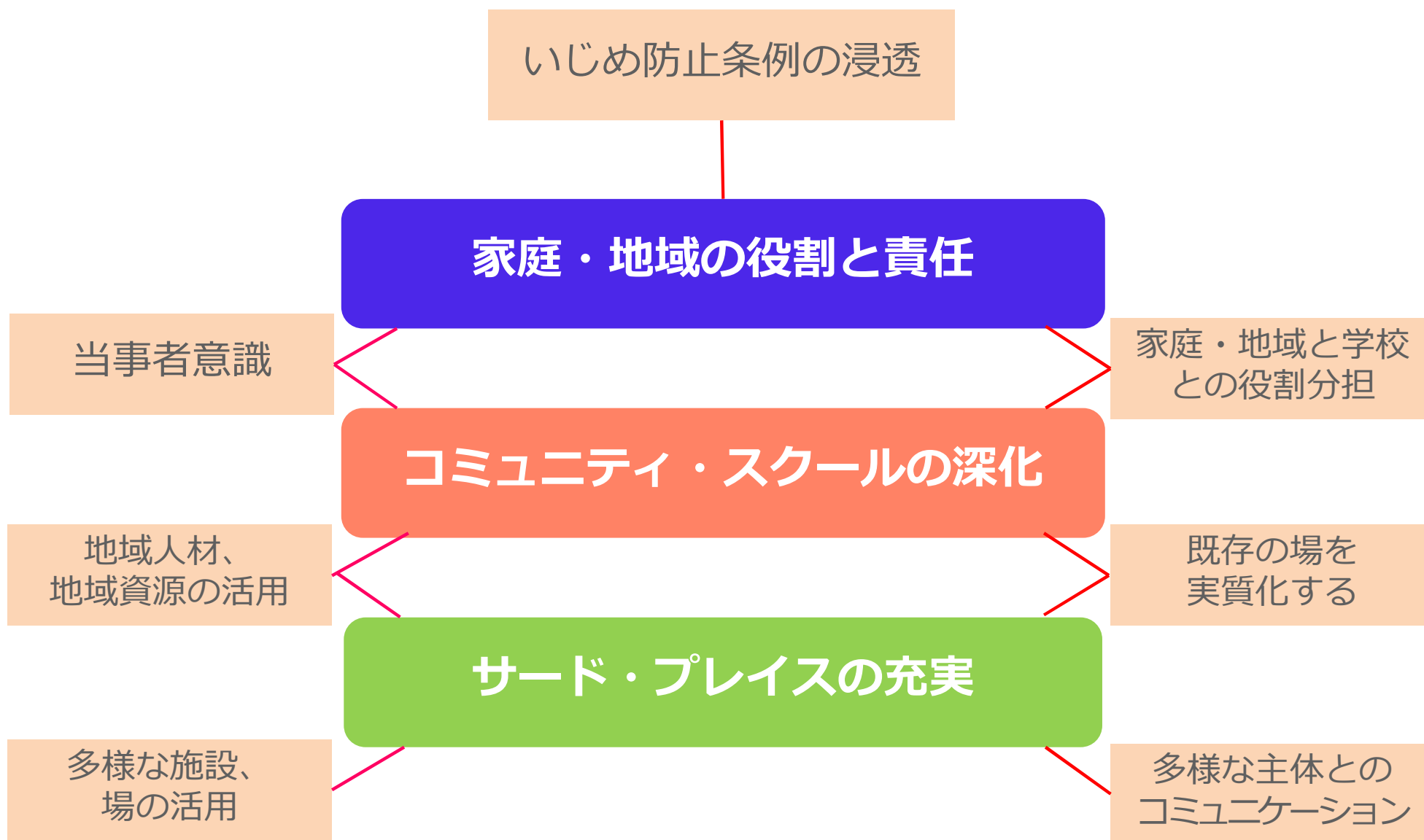
4－3 前回までにいただいたご意見（目指す**家庭・地域**の姿）

実現の方策・姿勢	施策についてのご意見
教育における 家庭・地域の役割と責任に 対する意識の向上	・学校、家庭、地域の役割分担の明確化 ・いじめ防止対策推進条例の周知を図ることで、家庭でいじめの問題を話し合うことができ、誰かがいじめられているということになれば、その情報がきちんと学校に伝わり、みんなで動くことにつながっていく
学校と地域をつなぐ コミュニティ・スクールの 深化	・コミュニティ・スクールが当事者として学校に関わる ・コミュニティ・スクールの活動の活発化による子どもたちのシビックプライドの向上 ・コミュニティ・スクール連絡協議会の設立など、お互いを刺激し合うことが必要 ・シニア層、学生、産業界の力を取り込む
地域における サードプレイスの充実	・サードプレイスなどにおける地域との関わりを通じた多様な主体とのコミュニケーションが必要 ・既存の場があるものについては、今あるものを実質化していく ・民間を含めたサードプレイスの充実
多様な地域資源を生かした 学びの場や機会の創出	・子どもたちの引き出しを増やすための、人材やプログラムが必要 ・人材、プログラムについて、教育委員会でリスト化し、紹介

5－1 施策の検討における視点（目指す**子ども**の姿）



5－2 施策の検討における視点（目指す**家庭・地域**の姿）



6－1 目指す姿を実現するための施策（目指す**子ども**の姿）

すべて子どもが安全安心な環境の中で、他者との協働・信頼を通し、

自己を認識し、自らの選択と行動によって幸せな未来をつくり出せる力を育む

実現の方策・姿勢

- ・ 生命の尊厳や人間関係の深い学びの実践
- ・ 子どもを主体とした、探究を核とする自律的学びの充実
- ・ 学校形態・学び方の多様化

施 策

新規

生命の尊厳への理解を深める学びの推進

新規

いじめ防止対策推進条例周知の取組みの推進

拡充

アゴラの一層の活用による探究的な学びの充実

拡充

タブレットを活用した探究的な学びの充実

拡充

不登校特例校の取組みの波及効果

拡充

小中一貫教育の取組みの推進

6－2 目指す姿を実現するための施策（目指す**家庭・地域**の姿）

保護者や地域住民がコミュニティ・スクールなどの多様な地域資源を活かし、

大人も子どもも学び・語り・支え合う、持続可能な教育のまちを創造する

実現の方策・姿勢

- ・教育における
家庭・地域の役割と責任
に対する意識の向上
- ・学校と地域をつなぐ
コミュニティ・スクールの
深化
- ・地域における
サードプレイスの充実
- ・多様な地域資源を
生かした学びの場や
機会の創出

施 策

拡充

家庭・地域の意識向上に向けた取組みの推進

新規

安心できる居場所、学び・体験の拠点としての
サードプレイスの充実

新規

コミュニティ・スクールにおける
コーディネーター機能の強化

7-1 具体的な施策の提案（生命の尊厳への理解を深める学びの推進）

現状

■ **関連する各教科等の内容と目安となる時数**（各指導主事への調査から「生命に関する授業」に特化して）

教科等	小学校の内容（目安となる時数）	中学校の内容（目安となる時数）
道 徳	【1～6年】「D：生命の尊さ」（各学年3～4）	【1～3年】「D：生命の尊さ」（各学年3）
社 会	【6年】くらしの中の基本的人権(1)	【3年】人権と共生社会(7)
生 活	【1年】きれいにさいてね(8) いきものとなかよし(6) 【2年】ぐんぐんそだてわたしの野さい(10) 生きものなかよし大さくせん(10)	
理 科	【3年】身の回りの生物(17) 【4年】人の体のつくりと運動(4) 季節と生物(20) 【5年】植物の発芽、成長、結実(21) 動物の誕生(11) 【6年】人の体のつくりと動き(8) 生物と環境(5) 植物の養分と水の通り道(7)	【1年】いろいろな生物とその共通点(18) 【2年】生物の体のつくりと働き(24) 【3年】生命の連続性(22) 自然と人間(6)
家 庭	【5or6年】食生活(30) 住生活(13) 【6年】家族・家庭生活(2)	【1 or 2年】食生活(12) 衣生活(2) 住生活(5) 消費生活・環境(4) 【3年】家族・家庭生活(15)
保健体育	【4年】思春期の体の変化～新しい命～(1)	【1年】心身の機能の発達と心の健康(2)
その他	題材や教材によっては、「生命の尊厳」に関わる内容も扱っている 《例》 国語：「ちいちゃんのかげおくり」「一つの花」 英語：「キング牧師」…等	

課題

- ・ いじめの重大事態の発生
- ・ 不登校児童生徒の増加
- ・ 子どもが抱える問題の多様化、複雑化

どのような教育を行って
いくことが必要なのか？

7-1 具体的な施策の提案（生命の尊厳への理解を深める学びの推進）

施策

- ① コンパス・カリキュラムの関係箇所に、「**生命の尊厳**」と記載し意図的指導を促す
- ② 「総合的な学習の時間」の**すべての時間**で、「**自己の生き方**」「**ライフスキル**」の指導を行う

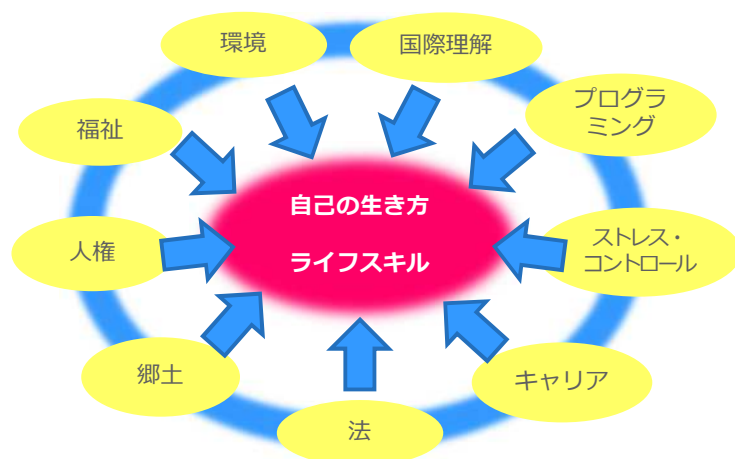
■ 「総合的な学習の時間」の現状

時 数：小学校…70時間 中学校…1年生50時間 2・3年生70時間

探究課題：学校ごと、学年ごとに追究するテーマを決定し、探究型の授業として取り組んでいる

(ex) 環境・福祉・人権・郷土・国際理解・キャリア・法・プログラミング…等

- 各探究課題を解決する過程の中に「**ライフスキル**」を習得し、「**自己の生き方**」を考える時間を位置付ける



通底する観点

・ 自己の生き方につなげて考える探究

・ ライフスキル（※）の10のスキルの探究

※日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力

- ①意思決定
- ②問題解決
- ③創造的思考
- ④批判的思考
- ⑤効果的コミュニケーション
- ⑥対人関係スキル
- ⑦自己認識
- ⑧共感性
- ⑨情動への対処
- ⑩ストレス・コントロール

出所:(文部科学省)在外教育施設安全対策資料【心のケア】第3章スクールカウンセリング

7-2 具体的な施策の提案（いじめ防止対策推進条例周知の取組みの推進）

現状

市内**全市立学校70校**に**いじめ対策監**を配置

**いじめの未然防止、
早期発見・早期対応**の体制を充実

「いじめを見逃さない日」 毎月3日

事案発生時には、
ガイドラインに沿って
速やかに組織的対応

「いじめ防止強化週間」 6/29～7/4

日常的に、いじめについて考える授業や講演を位置付け、
子ども同士、お互いの良さを認め合う機会を確保

課題

子ども、学校・教職員、家庭・地域の方すべてが、
いじめに対する**当事者意識**を高め、
いじめ防止のための**責務や役割**を果たしていくこと

7-2 具体的な施策の提案（いじめ防止対策推進条例周知の取組みの推進）

施策

岐阜市いじめ防止対策推進条例の周知のための取組み

①小学生向け、
中学生・教職員・保護者・地域の方
向けの説明用プレゼンテーション

②小学生向け、
ペープサートの演劇版のシナリオを活用

③市内小中学校教職員に対し、
中学校区ごとに、条例説明会を開催

④各学校において、
児童生徒、
教職員、
保護者、
地域の方等
へ説明

⑤市民向け
パンフレット等
作成

⑥岐阜工業高等学校
の協力の下、
条例説明用の
ムービー
ポスター
作成

7-3 具体的な施策の提案（アゴラの一層の活用による探究的な学びの充実）

現状

- 様々な教科等で、**主体的・対話的で深い学び**の実践に向けた授業改善に取り組んでいる。
- 教科横断的**な学習や、**協働的**な学習を強化していくことが重要。

全市的に「**総合的な学習の時間**」を中心に「**探究的な学び**」の学習を実施

■ 総合的な学習の時間の現状

時 数：小学校…70時間 中学校…1年生50時間 2・3年生70時間

テーマ：学校ごと、学年ごとに追究するテーマを決定し、探究型の授業として取り組んでいる

(ex) 環境・福祉・人権・郷土・国際理解・キャリア・プログラミング…等

課題

■ 「総合的な学習の時間」の実践についての学校間格差

- ・学校の実態、地域の特性、人的資源の有無
- ・育成したい資質・能力の明確化、検証、改善の有無
- ・テーマ、学習内容、活動内容の検証、見直しの有無



○岐阜市ではすべての子どもが、よりよく課題を解決し「**自己の生き方**」について**探究的に学ぶ**機会があることを再認識し、**市内全小中学校**で取り組む。

7-3 具体的な施策の提案（アゴラの一層の活用による探究的な学びの充実）

施策

○「アゴラ」を積極的に活用

- ・複数の知識や情報を持ち寄り、他との対話を通して、状況に応じた「納得解」「最適解」を自ら探し求める学習活動
- ・課題設定、情報の収集、整理・分析、まとめ表現」の探究のプロセスを学ぶ

○タブレットの活用

- ・タブレットを活用した、情報収集、整理・分析、プレゼンの活動の充実
- ・ICT機器やアゴラを活用した、対話的な学び、まとめ・表現にかかわる活動の発展

◇「陽南中学校」の実践より

- ・1年生で探究的な学びのための「**学び方**」を習得し、2年生での協働的な学び、3年生での個人追究へと**計画的、段階的**に指導を行う。
- ・生徒にとって必然性のあるPDCAサイクルでの学習を展開
- ・地域の教育資源を活かし、指導者として授業に積極的なかわり



■ 探究的な学びの一層の充実を図る

- ・各教科のコンパスカリキュラムに「探究的な学び」の指導ポイントを掲載
- ・アゴラ、タブレットを活用した、多様な活動の展開
- ・個に重点をおいた活動の展開
- ・地域の教育力の活用（幅広い視点での指導助言）



7-4 具体的な施策の提案（タブレットを活用した探究的な学びの充実）

現状

- 課題設定の場面では、教職員が電子黒板やデジタル教科書等を用いて行う説明を聞いたり、個別に教科書や資料から読み取ったりしている。
- 探究の場面では、教科書や教職員が作成した学習プリント、掲示や資料、タブレット等を活用し、個別に探究したり、隣の席や班の仲間と相談したりして、学習課題の協働的な追及、探究に取り組んでいる。
- 発表や交流の場面では、ノートを電子黒板に投影したり、ホワイトボードや画用紙などにまとめたりして、学級の仲間に対して自らの主張や考えを発表している。

課題

- 子どもたちの情報を活用する能力に差があり、課題を見出すこと等において、**個人差が生じやすい**。
- 生活班など同一の集団で交流する機会が多いため、積極的に取り組む子と控えめな子と差が生じやすい。
- 教職員は、子どもたち一人ひとりの課題探究や進度等の学習状況を把握するため、**机間指導に時間をかける必要がある**。
- 教職員は、指導・支援が必要な子どもへの対応をより丁寧に行う必要があり、**十分な指導時間を確保するのが困難**となる。

多様化する
子どもたち

十分な指導
時間がない

ICTを効果的に活用することで、課題を軽減する

7-4 具体的な施策の提案（タブレットを活用した探究的な学びの充実）

施策

- 「画面共有機能」を用いて教職員の手元でタブレット画面を共有することで、**子どもたち一人ひとりの考えを即時に確認**したり、**一人ひとりの反応を即時に把握**できるようにする。
- 「ポジショニング機能」を用いて子どもたちが**自らの考えの変化を可視化**することで、**自らの思考過程を自覚**し、**考えを広め深める**ことができるようにする。
- 「グループワーク機能」を用いて課題に対して自由にグループを組み、**一つの発表ノートに複数の学習者が同時に書き込んだり**、役割分担しながら**全員が協働して発表資料を作成**したりできるようにする。



タブレットの多様な機能を効果的に活用する

仲間と考えを練り合う学習

自分の考えと比較したりする学習が容易に行える

より一層探究を深め、自らの学びを構築することができる

7－5 具体的な施策の提案（教育・地域の意識向上に向けた取組みの推進）

現状

【家庭・地域に求められること】

- ・子どもたちの困り感に、家庭・地域全体で**気付く**
- ・**命の尊厳**を大切にする、**安心感**のある家庭・住みよい地域の形成
- ・**家庭と地域が一体**となって、子どもたちを育てる**教育力の向上**

○家庭・地域の見守り活動

- ・子どもの安全への関わり

（防犯・仲間づくり・いじめ防止・子ども110番の家等）

○地域と子どもとのつながり

- ・学校での郷土学習、ボランティア活動

（小中学校の活動、地域の活動等）

課題

- ◆地域の子どもの**見守り、育てようとする意識の醸成**に、地域団体が研修会などを通して取り組んでいるよさがある。
- ◆その一歩で、地域全体への広がりには難しさがある。
- ◆地域の子どもの育てる**家庭教育力と地域教育力の向上**が求められている。
- ◆いじめ防止の視点で**子どもの困り感を見守る地域づくり**が求められている。

7-5 具体的な施策の提案（教育・地域の意識向上に向けた取組みの推進）

施策

家庭・地域の役割と責任

【家庭づくり】

- ・ 困り感に寄り添う
- ・ 喜びと安心感

【地域づくり】

- ・ 困り感への見守り
- ・ 楽しさと住みよさ

家庭・地域の意識の向上

① 地域の実態に即した啓発活動、啓発事例の交流

- ★ 決めて守ろう！我が家のルール運動
- ★ 家庭の日推進大会

⇒ 家庭・地域で育てる意識の啓発

② 家庭や地域を対象とした講座や研修、各種大会

- ★ 家庭教育学級(講演-体験)
- ★ 子ども会育成会研修大会

⇒ 家庭・地域の教育力の向上

【担い手】 教育委員会(社会・青少年教育課)、青少年育成市民会議、子ども会育成会、PTA

③ 活動の単独開催から「ジョイント開催」へ

- これまでの各地域団体の単独開催が中心から、共同での開催検討へ。

⇒ 横断的に活動を実施し、思いを共有することで、意識の向上へ

7-6 具体的な施策の提案（安心できる居場所、学び・体験の拠点としてのサードプレイスの充実）

現状

◇地域における

学び・生活の支援

- ・学習スペース、教育相談、自立支援

◇子どもの興味・関心を生かす

学びの場の提供

- ・施設利用、講座、ボランティア活動

○利用者の自己有用感が高まっている

課題

◆学びの拠点の充実

- ・探究的学習の場
- ・基礎学力を育む場

→豊かに輝く自分

◆居場所の不足

- ・安心して自己表出できる場
- ・悩みを相談できる場

→安心できる自分

●サードプレイスとなる施設のさらなる有効活用

施策

◆ 学び・体験の拠点づくり 豊かに輝く自分になるために

探究的な学び・体験の機会の拡充

- ・ 地域(自然・人)とつながる学び
- ・ 施設の特徴を生かした学び

基礎的学力の定着

- ・ サタデー、サンデースクール

★ 探究のコアセンター
★ 探究・体験パスポート

【担い手】 図書館・科学館・歴史博物館・
ドリームシアター・少年自然の
家・青少年会館・児童センター・
公民館 など

施設職員はサードプレイスとしての意識で子どもを受け入れる

◆ 居場所、サポート体制づくり 安心できる自分になるために

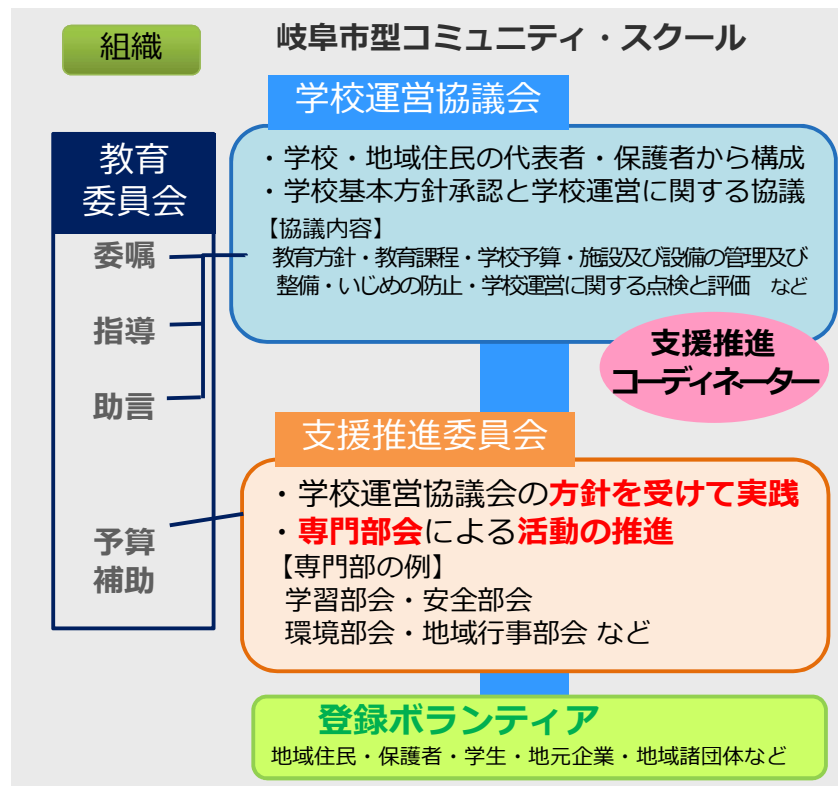
- ・ 居場所としての利用促進（フリースペースの活用等）
- ・ 若者の社会的自立支援の拡充（地域、ボランティア、NPO法人、職員）
- ・ 教育相談事業の充実（「エールぎふ」との連携）

【担い手】 青少年会館 ・ 放課後チャイルドコミュニティ ・ 児童センター など

7-7 具体的な施策の提案（コミュニティ・スクールにおけるコーディネーター機能の強化）

現状

H30 市立の全 小中学校・幼稚園・高等学校 C S 化



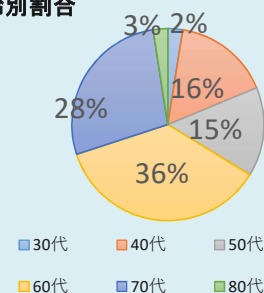
委員

「支援推進コーディネーター」

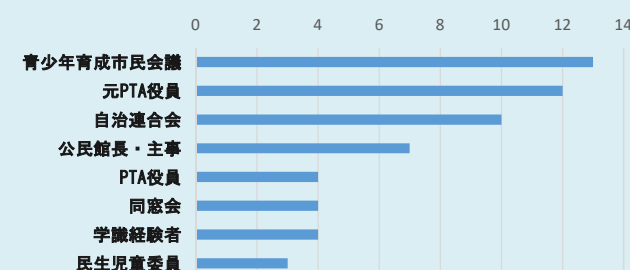
【学校運営協議会の委員】に位置付ける

- 学校との連携教育活動について企画・運営・支援者の募集、連絡調整 など
- 自治会連合会長、校長によって推薦される（推薦者は各CSで決める）

年齢別割合



社会的役割 (人)



活動

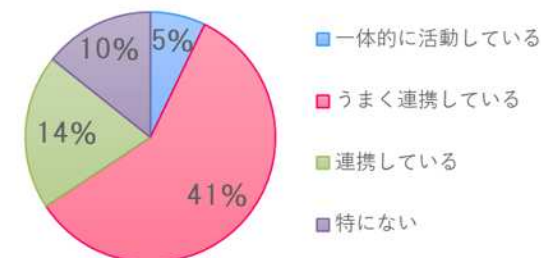
体験活動・学校支援活動

- 地域行事の企画・運営
- 地域ボランティアの調整
- 学習支援（授業準備、援助）
- 登下校対応（見守り）
- 実施・校内清掃
- 給食時対応 など

課題

- **コーディネーターの役割**について、学校によって認識が異なる
- 学校とCSで**問題を共有**し、問題解決につなげることができていない場合がある
- CSの運営に関して、**学校に負担**がかかる場合がある
- **まちづくり協議会**との更なる連携・協働

まちづくり協議会との連携



7-7 具体的な施策の提案（コミュニティ・スクールにおけるコーディネーター機能の強化）

施策

○ 先行事例の市全域での共有

①

総括コーディネーター を設置

- ・ コーディネーターへの研修講座の推進
- ・ 学校及びCSコーディネーターとの連携
- ・ 小中学校卒業生がCSへ参画する制度の施行

○ コーディネーターの役割の明確化

②

CSコーディネーター のスキルアップ

- ・ コーディネーターへの研修の実施
（対面・オンライン）
- ・ 学校の現状・ニーズについての
CSでの共通理解の場の設定
- ・ 各地域における活動事例の紹介

○ まちづくり協議会との更なる連携・協働

参考資料（不登校特例校の取組みの波及効果）

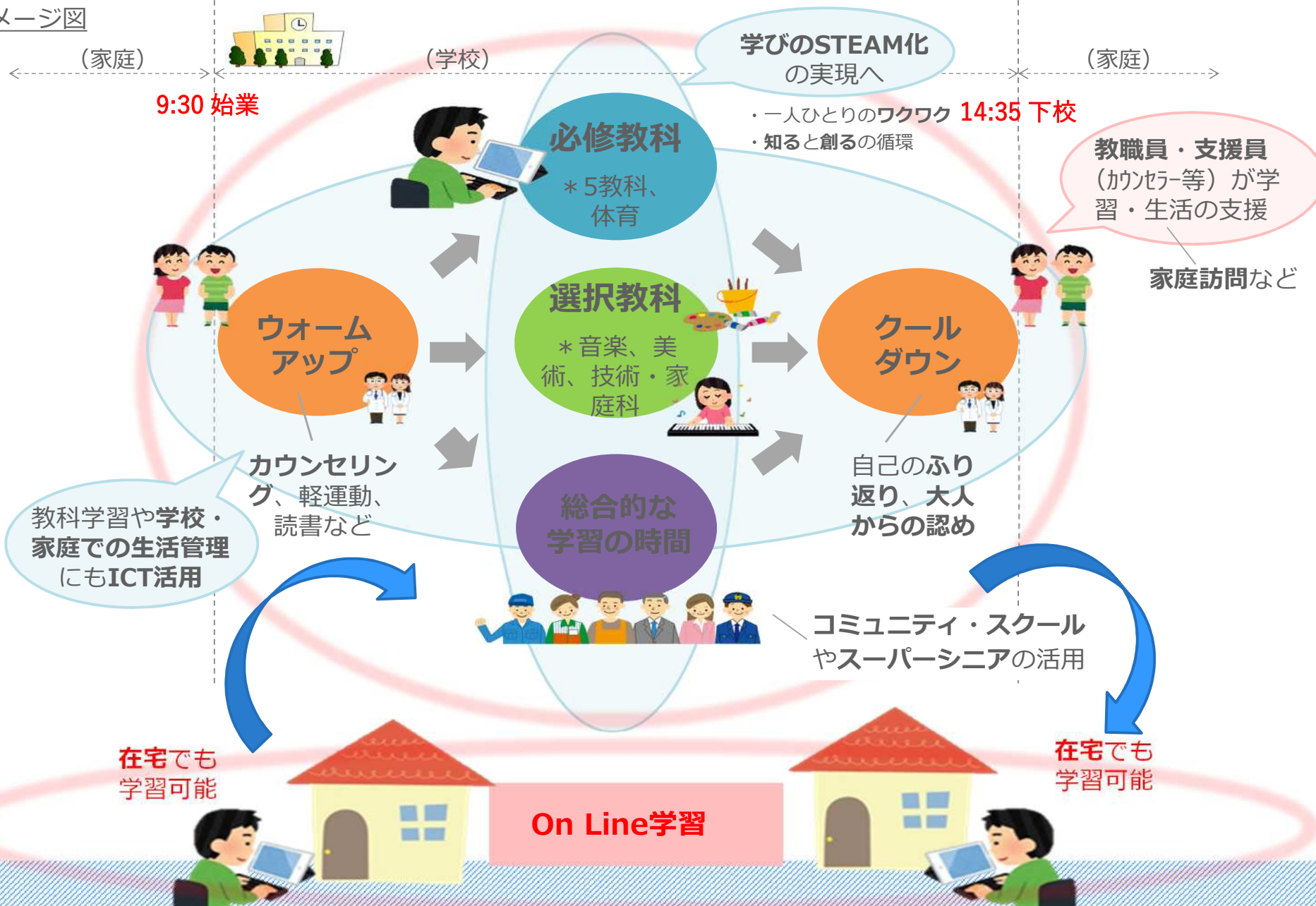
セルフコントロール

EdTech

セルフデザイン

ソーシャルスキル

■イメージ図

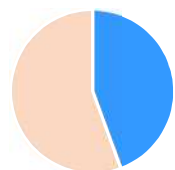


参考資料（小中一貫教育の取組みの推進）

現状

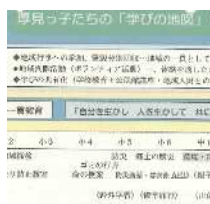
令和2年度より、施設が隣接している厚見小学校・厚見中学校、藍川小学校・藍川北中学校の両校区が、岐阜市型小中一貫校として教育活動をスタート

学びの深まり



- ・小学校における専門性を生かした授業の実施

44%の教科で実施



- ・**9年間**の学びが積みあがるカリキュラムの再編成
「学びの地図」
「総合的な学習の時間」

地域との連携



- ・厚見中学校区

平成**25**年度より

- ・藍川北中学校区

平成**26**年度より

合同の学校運営協議会
PTAの一元化
地域人材の積極的活用

積極的な異年齢集団交流



- ・あいさつ運動
- ・募金活動
- ・図工・美術作品交流会
- ・合唱交流会
- ・算数学習会
- ・地域連携活動
- ・百ヶ峰登山 等

工夫を凝らした学年での

交流活動

課題

人材配置



管理職

- ・地域のことをよく知る人を

教科担任制

- ・積極的に進めたいが、教科の偏りが生じている

加配

- ・今年度は配慮しているが、来年度以降どうなるか

施設整備



施設分離型

- ・職員室間の移動に時間がかかる

時間割

- ・移動する職員の空き時間の確保

老朽化

- ・築年数の経過
トイレ等の改修工事

情報管理



個人情報

- ・扱う個人情報が増える分、管理には十分な配慮が必要

情報発信

- ・連絡やメール文書等の統一